

## 最近の WIPO の動き (31)

## 世界知的所有権機関 (WIPO) 日本事務所\*

1. 「世界知的財産の日 (World IP Day)」  
日本における記念イベント

毎年4月26日は、国連の国際デー<sup>1)</sup>の一つとして「世界知的財産の日 (World IP Day)」と定められている。本稿では、前日の4月25日にWIPO 日本事務所が主催した世界知的財産の日2023 記念イベントについて報告する。



4月26日の世界知的財産の日 (World IP Day)<sup>2)</sup>は、WIPO 設立条約が施行された1970年4月26日にちなみ指定された日であり、毎年異なるテーマが設定され、世界各地でテーマに応じたイベントが開催される他、WIPOでも、クリエイター達をウェブサイト上で多様な言語により紹介するオンラインギャラリーの設置や、動画コンテスト等を実施している。

2023年のWorld IP Dayのテーマ「女性と知財 — イノベーションと創造性を加速させる力」の下、WIPO 日本事務所は、各界で活躍されている方々からの講演、パネルディスカッション等からなる記念イベントを4月25日に開催した。イベント特設ウェブサイト<sup>3)</sup>においてプログラムや登壇者の詳細が確認できる。

4年ぶりのリアル開催となった世界知的財産の日2023 記念イベントは、多様性がイノベーション

や知的財産制度に果たす具体的な事例を紹介しつつ、属性にとらわれず、それぞれが持つ個性や考え方、経験を活かせる社会をつくることこそが、次の時代の成長や発展につながるというWIPO 日本事務所長の澤井智毅の挨拶を持って開会した。その後、濱野幸一氏 (特許庁 長官) から来賓挨拶、竹中俊子氏 (ワシントン大学ロースクール・慶應義塾大学 法務研究科 教授) から基調講演、木村弘毅氏 (株式会社 MIXI 代表取締役社長 CEO) からビデオメッセージを賜った。また、知的財産活用企業 (株式会社 ALE) のインタビュー動画、一般社団法人日本知的財産協会 DE & I 研究会制作ビデオ動画を上映した。さらに、宮島香澄氏 (日本テレビ放送網株式会社 報道局 解説委員)、福島りえこ氏 (婦人発明家協会 会長、東京都議会議員 都民ファーストの会)、星野歩子氏 (東京大学先端科学技術研究センター 教授)、藤田和子氏 (経済産業省 基準認証政策課 弁理士)、江黒早耶香氏 (シティユアワ法律事務所 弁護士) による「多様性と包摂性が果たすイノベーションや知的財産への役割」をテーマとしたパネルディスカッションを行った。以下、イベントの主な内容について報告する。

\* WIPO の外部事務所の1つ。東京・霞が関に位置する。詳しくは、WIPO 日本事務所のウェブページを参照されたい：

<https://www.wipo.int/about-wipo/ja/offices/japan/>  
また、WIPO や WIPO 日本事務所の主要な活動については、ニュースレター (四季報) にて定期配信中：  
[https://www3.wipo.int/newsletters/ja/#wipo\\_japan](https://www3.wipo.int/newsletters/ja/#wipo_japan)

## 2. 来賓挨拶, 基調講演, 動画紹介

### 2-1. 濱野 幸一氏 (特許庁 長官) からの来賓挨拶

濱野氏からは来賓挨拶として、私たちが直面する困難な社会課題を解決に導くためのイノベーションへの期待及びこのイノベーションの促進のためにジェンダーを含む人材の多様性の強みを活かすことが重要であると述べられた。「女性と知財」に関し、日本国特許庁、WIPO を含め 36 の機関にて採択された国際女性デー共同メッセージの紹介、WIPO が進めている先住民族の女性起業家支援プロジェクトへの日本国特許庁の協力についても紹介され、本記念イベントについてもより多くの方が今年のテーマを考えるきっかけになることを期待している、と述べられた。



来賓挨拶の様子

### 2-2. 竹中 俊子氏 (ワシントン大学教授) からの基調講演

竹中氏からは、「多様性とイノベーション戦略」と題し、「世界の常識」をキーワードに、グローバルな視点で多様性の意義が紹介された。冒頭で男性かつ中堅・若手世代のみが写る日本のスタートアップ促進資料に対し、Pakwired が毎年発表するアメリカの CEO トップ 10 には、年代、民族、性別等多様性と包摂性に富んでいることを挙げ、異なった考え方がイノベーションの源泉であることの一例を示した。そして、シリコンバレー大手半導体企業の知的財産部トップも「多様性が企業の成長に良い影響を与えるのは常識」である

と述べており、「少なくとも 1 人の女性創業者がいるスタートアップ企業は、同様の投資段階で男性のみの創業者よりも多くの資金を調達できる」等、これを裏付ける実証研究がいくつも存在していることを挙げた。一方、日本では、例えば経団連の集合写真を見ても分かるように依然として組織の上層部にいくほど特定のグループに偏っていく傾向が高いのが現状であり、多様性の低い組織では異なるニーズを包括的に反映することが難しく、長い目で見れば大きな損失となるおそれがあると述べられた。女性で登用できる適任者がいないとの懸念をよく耳にするが、竹中氏自身のアメリカでのエピソードを交え、その人の素質を見抜く人をトップに置く重要性を強調された。



基調講演の様子

### 2-3. 木村 弘毅氏 (株式会社 MIXI 代表取締役社長 CEO) からの特別講演

「モンスター」を立ち上げたゲームプロデューサーであり、「心も繋ごう」を標榜する和製 SNS として知られる MIXI 社の代表取締役社長でもある木村氏からは、「多様性とコミュニケーション」と題し、ビデオ講演をいただいた。この中で、コミュニケーションを語る上で多様性は切り離せないこと、世界中の種々の考え方を尊重することが重要であると述べられた。会社の経営においても、人種や性別を超えた多様性の中でのコミュニケーションが重要であり、MIXI が経営指針としている「発明・夢中・誠実」においても様々な人々からの多様なアイデアを尊重してそれぞれが別個に

どのように輝かせていかせるのかを考えることが大切であると伝えられた。

## 2-4. 特別動画紹介

### 1) 知的財産活用企業の紹介及び知的財産プロモーション動画

IP Advantage<sup>4)</sup>では知的財産活用企業を紹介しており、本イベントでは、株式会社 ALE の宇宙エンターテイメントに関する事業紹介動画を上映した。本動画において、岡島礼奈氏（株式会社 ALE 代表取締役）は、宇宙ベンチャーにおける知的財産戦略について、知的財産は会社の基本となる部分であるため、エンジニアだけではなくビジネスサイドのメンバーも参加する知的財産委員会を設けているとの話があった。本動画は、IP Advantage 内に掲載されている<sup>5)</sup>。

また、知的財産の役割を分かり易く解説した知的財産プロモーションビデオ「青年ヒラガ、知財マスターへの旅」<sup>6)</sup>を公開した。WIPO 日本事務所のホームページにおいて無償開放しているのでは是非ご参照いただきたい。

### 2) 一般社団法人日本知的財産協会 DE & I 研究会制作動画

一般社団法人日本知的財産協会 DE & I 研究会が制作した動画「Be yourself!」では、日本のジェンダーギャップ指数が世界 146 か国中 116 位であり、G7 では最下位であることが示された。また、「日本女性は、大和撫子であるべし」という古くからの価値観があるが、そもそもアイデアの価値に男女の壁は存在しないため、「Be yourself」で未来をつくり、「21 世紀型大和撫子は強く、恐れず、大胆に」あるべきだとのメッセージがあった。

## 3. パネルディスカッション

パネルディスカッションでは、「多様性と包摂性が果たすイノベーションや知的財産への役割」をテーマに、多岐にわたりご活躍をされているパネリストの方々を迎え、5つのアジェンダについて意見が示された。

パネリストは以下の 5 名である。

- ・宮島香澄氏  
(日本テレビ放送網 (株) 報道局 解説委員)
- ・福島りえこ氏  
(婦人発明家協会 会長, 東京都議会議員  
都民ファーストの会)
- ・星野歩子氏  
(東京大学先端科学技術研究センター 教授)
- ・藤田和子氏  
(経済産業省 基準認証政策課 弁理士)
- ・江黒早耶香氏  
(シティユーワ法律事務所 弁護士)

### 3-1. アジェンダ 1: イノベーションと多様性・包摂性

本アジェンダの冒頭、モデレータを務めた澤井智毅より、多様性がイノベーションを促す交差点の役割を持つ」等の世界の有識者<sup>7)</sup>らの言葉を引用するとともに、UN Woman が提唱するジェンダー・イノベーション・プリンシプルズ<sup>8)</sup>を紹介しつつ、パネリストの見解を求めた。

福島りえこ氏は、民間企業で世界初の製品である「裸眼 3D 液晶テレビ」を開発した際に、ディスプレイ、回路、光学、画像処理など多様な専門性を持つ経験豊かな仲間が力を合わせることで、何度も難局を乗り越えることができたというご経験から、多様な方の意見をいただくことが良い仕事に繋がると信じている、と述べられた。

星野歩子氏は、バックグラウンドの異なる多様な人材が在籍する自身の研究室運営に加え、コーネル大学で 9 年程度研究をしていた経験から、同じデータを見ても、バックグラウンドにより異なる意見が出るが、多様な見解が得られることによって研究が成り立つ、との考えを述べられた。

藤田和子氏は、国際標準の業務に携わることご経験から、単純化、統一化することで業務などの効率化を図る「標準化」は一見すると多様性と反対のように思われるが、ISO 30415 の序章で、「相互のつながりが深まる現在の世界では D & I (ダイバーシティ & インクルージョン) を認識して活用

することはイノベーションを促す」旨が記されており、多様性と大いに関係があると考えられている、と伝えられた。

宮島香澄氏は、多様性が企業や組織にとって大事であるという発信は多くなってきたと思う一方で、十分に活用することはできていないと感じており、企業の決定権や組織の在り方などのあらゆるところに多様な意見がなければ本当の多様性とは言えない、と述べられた。

江黒早耶香氏は、家電製品やインターネット等の新しい技術が女性をはじめとするマイノリティの社会参加に貢献してきたとし、イノベーションや知的財産に携わる関係者の社会課題解決への努力に言及した上で、これからの時代はさらに多様なユーザーに合わせた開発努力が求められる時代になるだろうと述べられた。また、スタンフォード大学ロンダ・シービンガー教授が提唱した「ジェンダード・イノベーション」を紹介し、製造物責任の観点からも、マイノリティのユーザーの視点が企業のリスク対策として必要である、と述べられた。

### 3-2. アジェンダ 2 : 働き方と多様性・包摂性

本アジェンダの冒頭、澤井智毅より、英経済誌が行う主要国 29 か国を対象とした女性の働きやすさランキングにおいて、長く日本は韓国に次いでワースト 2 位に低迷していると紹介しつつ、パネリストの見解を求めた。

宮島香澄氏は、近年のリモートワークの普及により、個人のアウトプットが見えやすくなり、業務時間外の飲み会などで大事な決定がなされることを改善してきた一方で、アウトプットの評価においてソフトパワーの評価が弱いと感じると述べられた。どちらかと言えば女性が得意としている部分も多いソフトパワーを、もっと評価をするべきである、と述べられた。

藤田和子氏は、弁理士は知的財産の専門家としての意見が求められるため、弁理士業務を始めてからはジェンダーによる差を感じる経験がないとした上で、情報管理ができる環境であればパソコン 1 つで仕事ができるため時間管理がしやすく、

特に子供が小さい頃は働きやすさを感じたご経験から、業務や自身のキャリアを止める必要がなくなるという点で、働き方の多様化は重要である、と述べられた。

星野歩子氏は、日本は、家庭か仕事のいずれかを選ばなければならない状況と指摘されている。海外でも、子育てが理由で学会参加を躊躇する点が問題視されている。研究者ゆえの自身の出張経験から、個人によって必要なサポートが異なっており、全員に平等な環境をそろえることよりも、同じ景色を見るためのサポートが必要である、と考えている、と述べられた。

江黒早耶香氏は、憲法上の勤労権、幸福追求権を念頭に、育児中・介護中の方や闘病中の方、障がい者の方の就労、パートナーが海外転勤になった場合の帯同者も海外から日本のオフィスとつないで自分の仕事を続けたり、最先端の専門技術を磨くために海外の会社を含めて転職するキャリアパスが出てくることを考えれば、イノベーションのためには、マネジメントが率先してリモートワークを含む柔軟な働き方を拡大させる必要がある、と述べられた。

### 3-3. アジェンダ 3 : 教育と多様性・包摂性

本アジェンダの冒頭、澤井智毅より、本イベントに先立ち行った浅川智恵子日本科学未来館館長とのインタビュー内容<sup>9)</sup>、とりわけ「イノベーション創出にあたり、『女性であること』を意識する必要はなく、むしろ『女性であること』は強みであるとポジティブに捉えましょう」との女性に向けた同氏の言葉を引用しつつ、パネリストの見解を求めた。

なお、浅川智恵子日本科学未来館館長は、中学生の頃に失明した経験乗り越え、ウェブページを読み上げるホームページリーダーの開発者として、日本人女性として初めて全米発明家殿堂 (NIHF) に入りした、IBM フェローでもある。インタビュー内容は、日英両語にて、WIPO 日本事務所のホームページにて国内外に公表しているので参照してほしい。



インタビューの様子

星野歩子氏は、アメリカで小学生時代や研究者として過ごした経験から、アメリカでは子供の頃から、プレゼンテーションの機会が多く作られるとともに、自分になりたいもののイメージを持たせる教育があると紹介された。また、研究者になった後も、上の世代からエレベータートークなどコミュニケーションの重要性を伝えられる機会も少なくなかったとして、現在自身が運営する研究室では、これを実践している、と述べられた。

藤田和子氏は、次世代への知的財産教育では、権利侵害回避のための行動制限といったネガティブな側面からではなく、まずは創造の楽しさ、イノベーションにより作り出される夢ある未来といったポジティブな側面を伝え、知的財産に興味・関心を持ってもらうようにするはじめの一步が重要、と述べられた。また、例えば薬など、使用後の影響が性差によって異なる可能性があるようなものは、研究開発段階から性差を考慮するなど、多様性を取り入れることは重要である、と述べられた。

福島りえこ氏は、都議会議員として「次世代教育のアップデート」を掲げており、知識獲得偏重を日本の教育の問題として挙げ、目的意識や主体性、自己決定能力を獲得する機会が小学校低学年からの受験勉強で奪われていると考えていると述べられた。東京都では子供の頃から多様性を学ぶ取組として、異年齢の交流に新たに取組むが、知識獲得に比べて主体性と能動性は数字で効果を表しにくいことから、その価値を定量的に示すことを推進し、知識獲得偏重を改めていきたい、と述べられた。

### 3-4. アジェンダ4：企業価値と多様性・包摂性

本アジェンダの冒頭、澤井智毅より、CSR (Corporate Social Responsibility) への関心の高まりとともに、ガバナンスを含む ESG 投資が欧州、北米に追随し、日本も近年急激にその比重を増していることを紹介しつつ、パネリストの見解を求めた。

宮島香澄氏は、CSR や知的財産の企業の意識は年々高くなってきているものの、主要な先進国とは大きく差がつけられていること、知的財産を評価するガイドラインを作成したものの、金融機関の融資では知的財産の評価が判断に組み込まれないことがあり、経営者と金融機関の双方が知識や意識を高める必要があること、を述べられた。また、企業の役員に知的財産の担当者がいるか否かが、今後のイノベーションについていけるか否かに影響してくるのではないかと、との考えを示された。

江黒早耶香氏は、2021年にコーポレートガバナンスコードが改訂され、知的財産や人的資本への投資の監督が追記されたが、知財ガバナンスは、ノウハウや著作権等を含むため、特許を所有しない会社も含めて、全ての会社が取り組む必要がある。基本のマニュアルを、変化の多い個々の現場に応用するためのノウハウは、多様な人材がいる会社がより優れると投資家が判断することは合理性がある。また、近年、人権デュー・デリジェンス (DD) が注目されており、サプライチェーンにおいて劣悪な労働環境や環境汚染があるとビジネスとしては成立しないため、研究初期段階から研究パートナーが信頼できるかどうかを見ておくべきだ、と述べられた。

藤田和子氏は、企業の資産価値の公表は企業価値向上に資するように行われるのが望ましく、オープン・クローズ戦略を踏まえて各社が開示可能な情報を軸に、投資家が求めている情報を開示することで外部評価を高めていくことが重要だ、と述べられた。経済産業省では、企業と投資家を繋ぐ共通言語として対話や情報開示のあり方の拠り所となる枠組みとなる「価値協創ガイダンス」を公表しており、参考にされたい、と述べられた。

### 3-5. アジェンダ 5：多様性と包摂性が果たすオープンイノベーションや知的財産への役割

本アジェンダの冒頭、澤井智毅より、欧米企業に比べ、オープンイノベーションに遅れる日本の現状を示しつつ、パネリストの見解を求めた。

藤田和子氏は、多様性とイノベーションから生まれた好事例として、何らかの行動に制限を持つ人々も対象に含めた設計にすることで多くの人にとって便利になる共用品（アクセシブルデザイン）を挙げられ、シャンプー容器の横に設けられたギザギザ状の触覚記号の有無により、シャンプーとリンスとの区別を可能とする代表例を説明された。そしてこのアクセシブルデザインが、商品を作る複数の企業とそれを使用する多様な利用者の意見を取り入れて検討されるものであるオープンイノベーションそのものであり、しかもこの考えが日本では実は柏餅の葉など古くからあるもので、今は日本提案として国際標準化が実現したことから、日本にはオープンイノベーションを生み出す強い力があると信じている、と述べられた。

江黒早耶香氏は、IT やデータベースを使って生産者が顧客情報を直接得られる時代であるため、ユーザーが製品に合わせるのではなく、製品やサービスが個人の事情に合わせて開発される、マイノリティ向けの製品にこそ高付加価値が生まれる時代になってくるのではないかと考える。ただし、マイノリティ向けの製品は小さな市場では利益確保が難しいため、開発当初からグローバルマーケットを目指すべきである。必然的に自前主義は困難で、海外企業や海外の機関と契約するため、イノベーションや知的財産の関係者は、外国の法令や国際契約のリテラシーを持つ必要がある、と述べられた。

宮島香澄氏は、メタバースなど無形価値の重要性が高まる中、また、『一億総発信時代』と呼ばれる現代において、未だ一般的であるとは言い難い知的財産のルールを広めていく必要がある、と述べられた。

星野歩子氏は、世界中誰一人として同じ研究者はいないからこそ、自分が思い悩んでいる点を解決してくれる研究者に出会える経験がある。オン

ラインが当たりまえの時代だからこそ、国を超えた連携をしやすくなっている、と述べられた。

福島りえこ氏は、将来的に目的が乖離した時の議論を避けるため、共同出願を望まない企業もあるが、そういう姿勢ではオープンイノベーションは進まず、意思疎通のしやすい自社のみで開発するだけでは多様な人に受け入れられる商品は開発できない、との考えを示された。企業で研究開発をしていた際の、手を動かした時に頭で考えていた通りにはいかなかったところに発見があり、発明に繋がるという経験から、都議会議員として、子供たちが手を動かす機会を取り戻したい、と述べられた。

最後に会場に質問を求めたところ、海外と比較した日本での強みがあるのか、遅れている日本社会の経営陣に訴えかけるヒント等々に関する数多くの質問を受け、これらに対するパネリストの見解が披露された。なお、パネリストの皆様の実験や多様性に対する会場の関心の高さから、30分ほどの質疑応答時間では足りず、会場から質問を求める挙手が止むことはなかった。



パネルディスカッションの様子

## 4. おわりに

今年のイベントは、4年ぶりの物理開催ということもあり、知的財産関係者はもとより、中学生から、外国大使館員、企業経営層や機関、大学のトップに至る多様な層の200名を超える多くの方々にご参加をいただいた。

前述で紹介したホール内でのメインイベントの他、ホールホワイエにて特許、意匠、商標、地理的表示に関するパネル展示や、IP Advantage<sup>10)</sup>にて紹介された Groove X 社の家族型ロボット LOVOT (らぼっと) の来場があり、休憩時間にも多くの来場者でにぎわった。リアル開催ならではの数々の展示への観覧と実物へのふれあいによって皆様が今まで以上に知的財産を身近に感じていただけたら幸いである。

WIPO 日本事務所は、引き続き知的財産の普及のため各種の取組を実施していく予定であるので是非今後の活動にもご注目いただきたい。



休憩時間のホワイエの様子

大学教授のジョセフ・ヘンリック、米国作家・起業家のフランス・ヨハンソン

- 8) ジェンダー・イノベーション・プリンシプルズ
  1. Make a high-level corporate commitment to adopt a gender-responsive approach to innovation
  2. Design innovations that include women as end users
  3. Adapt implementation approaches to ensure innovations meet the needs of women
  4. Evaluate gender-responsive impacts by using a data-driven approach
  5. Scale innovations that provide sustainable solutions to meet the needs of women and girls
- 9) 浅川館長インタビュー記事：[https://www.wipo.int/about-wipo/ja/offices/japan/news/2023/news\\_0006.html](https://www.wipo.int/about-wipo/ja/offices/japan/news/2023/news_0006.html)
- 10) IP Advantage Groove X の紹介：<https://www.wipo.int/export/sites/www/about-wipo/ja/offices/japan/docs/groovex.pdf>

(原稿受領日 2023年5月8日)

(注)

- 1) 国際デーに関する国際連合広報センターウェブサイト：[https://www.unic.or.jp/activities/international\\_observances/days/](https://www.unic.or.jp/activities/international_observances/days/)
- 2) 関連する WIPO ウェブページ (日本語)：<https://www.wipo.int/ip-outreach/ja/ipday/index.html>
- 3) WIPO 日本事務所主催「世界知的財産の日 2023 記念オンラインイベント」特設ウェブサイト：[https://www.wipo.int/meetings/ja/2023/wjo\\_ipday.html](https://www.wipo.int/meetings/ja/2023/wjo_ipday.html)
- 4) IP Advantage による紹介：<https://www.wipo.int/about-wipo/ja/offices/japan/ip-advantage-stories.html>
- 5) IP Advantage 株式会社 ALE の紹介：<https://www.wipo.int/ipadvantage/en/details.jsp?id=12737>
- 6) 「青年ヒラガ、知財マスターへの旅」URL：<https://c.connectedviews.com/01/Player/WIPOwebinars/?s=119217&a=false>
- 7) 英国ジャーナリストのマシュー・サイド、ハーバード